

●題名

2015年8月9日 日曜 魚野川万太郎谷イドゴヤ沢右俣

●参加者

松村(リーダー、記録)、落合(SL)、若林、平川

●ルート選定

昨年(2014年)の8月下旬に計画したものの天候不順で中止になったルートである。

時期が早いので雪渓が懸念であったが、果たして雪渓が残っており苦労した。

右俣は本谷(左俣)のエスケープルートであるが、小滝の連続するなかなか快適な沢であった。ツメも楽しんだ。人気ルートなのか、他に2パーティーと遭遇した。

●行動記録

4:50	土樽駅
5:00	登山口 出発
5:30	万太郎谷 入渓
6:40	オキドウキヨ沢出会
7:20	イドゴヤ沢出会 入渓
8:10	小障子沢出会
10:00	20m 大滝
10:50	二俣
12:20	稜線→吾策新道
14:30	登山口

●写真と記録

久しぶりに土樽へ帰ってきた。吾策新道近くまで車高の高い車なら入れる。

ふたつめの堰堤から万太郎谷に入渓する。スリット式堰堤に流木が詰まっているため、左から巻く。

流木は2週前の豪雨の影響であろうか。

万太郎谷はやや暗い印象を受ける。



万太郎谷の小滝は少々難しく、お助け紐を多用した。

オキドウキョでは落合が「いま泳がなくて、いつ泳ぐんですか！」と主張するので、私以外は泳いだ。

その前に我々を追い越していった屈強な男2人組も巻いていたよ…。



←オキドウキョを泳ぐ。巻く場合は左岸～右岸

寒さで震えながらイドゴヤ沢出合いに到着する。明瞭な沢が左岸から入ってくるが、オキドウキョ沢からの距離が想像より短かかったので、イドゴヤ沢かどうか確信が持てなかった。疑心暗鬼のまま遡行していくと遡行図に書かれている小滝郡が現れたので安心した。

イドゴヤ沢でも(松村以外は)泳げるところはアグレッシブに泳いでいく。



←また泳ぐ

小障子沢は雪渓で埋まっていた。沢は右へ屈曲し、最も登りがいのある小滝郡が現れる。滑りやすい3m滝を落合が突破して後続を引き上げる。次のCS滝はショルダーで越えるが、その次の3m滝がひどいシャワータイムで抜けられない。既に右岸を巻き始めていた若林と平川に滝の上から引っ張り上げてもらおうと考えたが、巻きの途中で行き詰ったようなので、我々も滝は諦めて右岸を巻くことにする。



←CS滝

その後、雪渓が2回出てくる。

1回目の雪渓は左岸を巻こうとしたが、斜面に手掛かりがなく、やむなく雪渓の上を歩いた。雪渓が薄かったので肝を冷やした。また、雪渓の末端がブロック状に崩壊しており、ブロックの間を飛び移りながら移動した。隙間に落ちるのではないかとヒヤヒヤした。全体的に段取りが悪く、危険な状況に長時間パーティーを曝してしまった。次回以降は手順を決めて素早く行動したい。



←雪渓の上を行く



←右岸寄りを進んだ。何度かブロック間を飛び移った。

2回目の雪渓は巻きも登るのも難しそうだったので下をくぐった。松村は初めて雪渓をくぐったが、気持ちのよいものでは無かった。





20m 大滝は簡単だったのでロープを出さなかった。



二俣は明るく開けている。右俣を進むと 10m 程度のやや立った滝があり、フォローにロープをだす。

最後はほとんど藪コギなく稜線に出る。

登山道からイドゴヤ沢の雪溪が見えた。正面の尾根(茂倉新道)に切れ込むのはカワダナ沢だろうか。この山域への興味は尽きない。

